

医療戒厳令：これが彼らの地球惑星をロックダウンするやり方か？

グローバリストは、にわか仕立てのコロナウィルス病で、グローバリズムを締め上げている

【訳者 Greatchain】

この副題は、ややわかりにくいかもしれないが、多くの論文に見られる皮肉な権力者への態度を、要約するものである。SOTNは、いま見えてきた“地球惑星”の像を、「虚像」として見ようとしている。事態が深刻でないというのではない。どんなに深刻であっても、本質は虚像だということである。じっくり読めば、彼がいかにかこの危機に対して、的確なバランス感覚を掴んでいるかがわかるだろう。この厄介な伝染病は、1918年（大正7年）の「スペイン風邪」（一説に5億人死亡）のように大規模なものに発展するかもしれない。我々は死ぬかもしれない。しかしそれは、我々が目を覚ますための、きっかけとして意図されていると考えることができる。それは我々の相手が、その使命を背負って現われきた、イルミナティ（グローバリスト、国際犯罪者）というサタン信者だったことから、考えることができる。

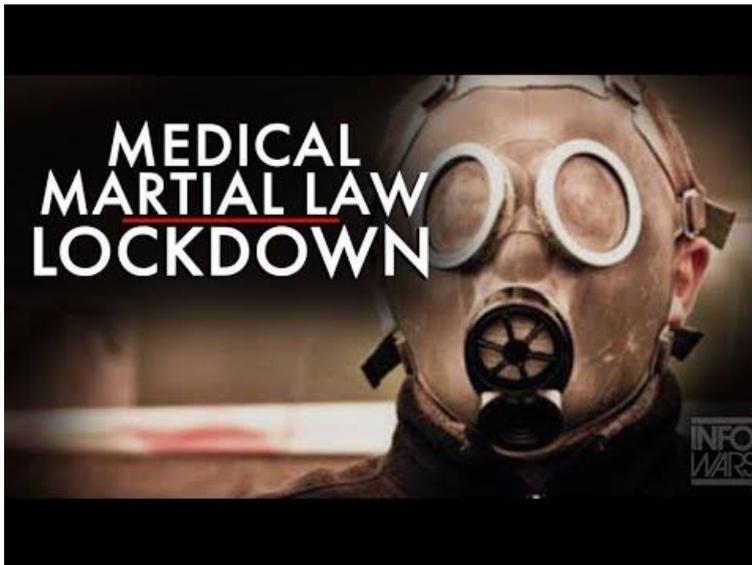
この立場を我々はずっと取ってきた。それを否定する唯物論者を否定してきた。SOTNも、この奥にあるのは「カルマ」だと言ったり、「神は曲がった線を用いてまっすぐに書く」と教えたりしている。我々は、この事態を「いよいよ佳境に入った」と言ってもよく、本格的な勝負に入ったと見てもいいだろう。世間一般や唯物論者は、ただこの面倒を抜け出せばそれでよいと考えている。我々や、デイヴィッド・ウィルコックや、SOTNのような有神論者は、別の考え方をしており、少なくとも世間一般より明瞭に、物を考えている。

「医療戒厳令」という言葉は現実味があり、おそらくその通りのことが起こると思われる。これを拒否するか、騙されて彼らに加勢するかが、生死運命を決めるだろう。

圧巻は「結論」の部分であろう。これほど霧が晴れるように、よくわかり、そして共感できる文章は、あまりないだろう。特にこの「幽閉（投獄）」の比喩の部分。これは比喩と言いながら、我々の現実そのものである。「ああ、そうだったのか」という発見の歓喜の声、グローバリストに対するむしろ同情の気持ちとともに、周囲から聞こえてきそうである。

SOTN

March 7, 2020



医療戒厳令を布こうとする、この裸同然の試みを見たあと、この見え見えのヤラセのコロナウイルス大流行について、他にどんなことを言う必要があるのか？

彼ら自身の行動によって、我々すべてが今、目撃しようとしているものは、いつもの、おなじみの容疑者による、もう一つのニセ旗であり、大量死事件であること、その名を「**コロナウイルス・パンデミック作戦**」と呼ぶものであることは、今明らかである。

もちろん、この陰謀パズルには多くのピースがある。しかしそれらはすべて、同じ結果——類を見ない、地球惑星のロックダウンにつながっている。

いや実に、人類を手ばやく効果的に投獄するのに、医療戒厳令を布く以上の、どんな方法があるだろうか？

医療戒厳令という口実

New World Order グローバリスト陰謀団が、なぜ、すべての国家に、医療戒厳令を布告させねばならない、深刻な使命があるのか——これには明らかないくつかの理由がある。

何か特別の NWO の指令すべき項目があって、そのためにコロナウイルスが、法律的また合法的な口実として、使われるわけではない。医療戒厳令もまた、必要な指令を果たすためには、その隠ぺいの役割はなすことができる。それはまた、政府に権力を与えて、彼ら自身が法的にはもたない権力を、持たせることもできる。その使命とは：——

・言論の自由を制限するため、インターネットの利用に厳重な制限をかけよ（注：SOTN、アレックス・ジョーンズ、デイヴィッド・アイク、また、訳者自身がここで受けているイジワル）

・命令的インフル・ワクチンを計画し、子供ワクチンを強制せよ

・地球的ケミカル・ジオエンジニアリング作戦を、完全に遠慮なく展開せよ

・各国の世界共同体を、キャッシュレスな、デジタル通貨に移行させよ

・5Gの軍事展開を、世界的に抗議を受けることなく、完成させよ

・「モノのインターネット」の構築を、5Gが作動する所ではどこでも促進せよ

・5Gと「モノのインターネット」が十分に発達している所では、スマート・シティを建設せよ

・マイクロチップによって、すべての人間がデジタルIDを持てるようにせよ

・すべての社会メディアの利用と、ブログの公表を規制して、真理の拡散を大幅に制限せよ

（「一世界政府を国家の世界共同体につかませよ（押し付けよ）」以下の16項目については、前に訳したものと重複しているので省略する）

キーポイント：明らかに、トランプ大統領は、未来のバイオ愛国法（Bio-Patriot Act）を、医療戒厳令宣言の序曲として、推進する準備をしている。この強化されつつあるパンデミック心理作戦は、あらかじめ計画されたバイオ愛国法を通過させる、強力な正当化を与えるために、意図的に推進されつつある。アメリカでCOVID-19によって起こる罹病率と死亡率が、高いほど、医療戒厳令が発せられる確率が大きくなる。

「トランプの主たる使命は、2020年にバイオ愛国法を押し付けることか？（ビデオ）」

<http://stateofthenation.co/?p=8719>

結論

コロナウィルス・パンデミック作戦は、権力者による途方もない考え違いに見える。それはまた、人類のすべてを効果的に閉じ込めようとする、彼らの完全な絶望を反映するものでもある。

そうだ、これがずっと彼らの計画だったのだ。しかし、それは幽閉の、スロー・モーションで、わずかずつしか進まない過程として意図されていたのだった——あまりにもゆっくりとして見事に運ばれるから、あらゆる所の人々が、現実には、自分自身の投獄を要求したくなるように計画されていた。これは羊人間 (sheeple) が狼によって脅かされたとき、そうなる状態ではないのか？

しかしなぜなのか？

なぜ、グローバリスト犯罪者たちは、この惑星の文明全体を、永久の惑星牢獄とし、あらゆる人々が、自分は地球感化院に住んでいると思わせるように、仕向けようとしたのだろうか？

それは彼らが大へまをやったからだ——今が大チャンスなのだ！
そのような理由による。

そして、インターネットを存分に走らせていれば、誰でも簡単に、彼らの恐ろしく長年続けてきた犯罪騒ぎ——彼らが隠し続け、今も、今日まで継続している犯罪を、簡単に知ることができる。

ポイントは何か？

権力者たち (The Powers That Be) は、もはや安全だと思っていない。それは彼らが安全でないからだ。

結局のところ、我々は彼らが誰かを知っている。

インターネットのおかげで、我々は、彼らの全部を知っている。

今まだ、サイバースペースにその名が現れていない犯罪者ですら、単にカネをたどってみるだけで、見つけ出すことができる。すべての国際犯罪網が、実行するには大金がかかるので、彼らの指紋がコロナウィルス犯罪シーンの中に現われている。実を言えば、彼らのエージェントたちの署名も、すべてこのヤラセのパンデミックの、全面についている。

そうだ、世界の権力構造のまさにトップにいる、最も邪悪な意思決定者は、まだ隠されてはいるが、アメリカ人たちが、本当は誰が9・11をやったのか、そして特に、誰がこのコロナウィルス・パンデミックを発射し持続させたのかを、見つけるようになってからは、彼らはそう長くは続かないだろう。それは基本的に同じ陰謀団 cabal である。参照せよ：
「密かにアメリカを支配する者たちが、9・11、JFK、OK City、5 G、ケムトレール、ワクチン、などを裁かれない限り、何も変わらない」

<http://stateofthenation.co/?p=5363>